

しまなみだより

第20号 2023年3月発行



陽春のみぎり、皆様におかれましては健やかに過ごしのことと存じます。平素より本学の教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

3月23日の卒業式で、4年生63名が本学を巣立ちました。看護職への期待がますます高まる中、それぞれが選んだ道で活躍してくれることを期待しています。

今号では、令和4年度後期の学生生活の様子をお知らせします。

(看護学科 / 看護学コース広報係)



卒業研究報告後（撮影時のみマスクははずしています）

卒業研究報告会

12月19日に「令和4年度看護学科卒業研究報告会」を開催しました。4年生は1人1題の研究テーマを設定し、それぞれのテーマに沿った研究手法を用いて調査し、明らかになった結果から考察を導き、看護の知見をまとめることができました。報告会では、司会進行、座長の役割も学生が行い、発表者はパワーポイントを用いて発表しました。臨地実習や就職活動、国家試験の勉強と並行させながら計画的に卒業研究を進め、最後まで情熱をもってやり遂げました。

1～3年生も多く聴講し「実習での経験や自分の考えを堂々と話される姿に圧倒されました。とても格好よく別人のように見えました。」と尊敬の聲が聞こえてきました。1～3年生も今後の授業や学内演習、臨地実習への取り組みに対する新たな視点も出てきたようです。

報告会で発表した内容を「卒業研究論文集」としてまとめ、4年生にUSBで配布しています。ご家族の皆さまもぜひご覧になってください。

(三宅由希子)



令和4年度 卒業研究報告会の様子

2会場に分かれて開催しました。1～3年生からも多くの参加がありました。

司会進行や座長の役割も4年生が行いました！



第27回

浮城祭

11月12-13日に第27回浮城祭が開催されました。テーマは「Re: start一止まっていないで楽しいことしようぜー」でした。3年ぶりの対面開催ということで私たち実行委員は気合を入れて夏休みごろから計画、準備を行いました。開催直前は夜まで大学に残り準備に励みました。当日は各サークル、有志のステージ発表、展示、模擬店出店がありました。当日は試験直前にも関わらず多くの学生に会場いただき非常に盛り上がった2日間となりました。学生の感想では「友達との思い出ができた」「大学祭を知らず卒業するかもしれないので体験することができてよかった」といった声が聞かれました。参加した皆さんに楽しんで頂けた行事になったようです。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から学内者のみの開催となり、制限も多くありました。来年度は学外の方にも参加していただき、より地域に特別感を持っていただける行事に戻ることを祈っています。

(片桐碧采子)



吹奏楽サークル



看護4年生



正門



看護2年生
ダンスパフォーマンス

1～4年生の授業紹介

1年生 地域看護対象論Ⅰ

この科目では、地域に暮らす人びとの生活や健康を理解するために、行動型学修を取り入れた授業を行っています。具体的には、三原市内の地区踏査、住民インタビュー、地域の障がい者の方との関わりなどを取り入れています。地区踏査の演習では、学生は三原市で暮らす様々な住民の立場になって地域を歩いて観察し、その地域にしかない環境がそこに暮らす人の生活や健康にどのように影響するかを考えていきます。また、地域で暮らす多様な健康レベルの人に対して行うインタビューや意見交換をふまえた演習では、学生自らが質問を考え、対象者とのやりとりの中で理解を深めていきます。対象者のその人なりの暮らしと健康を理解し、人は互いに支え合って生きていることへの気づきを深めながら、どのような関わりが必要になるのかを学生1人1人が考えていくことを期待しています。

(岡田ゆみ)



演習風景：住民インタビューの様子



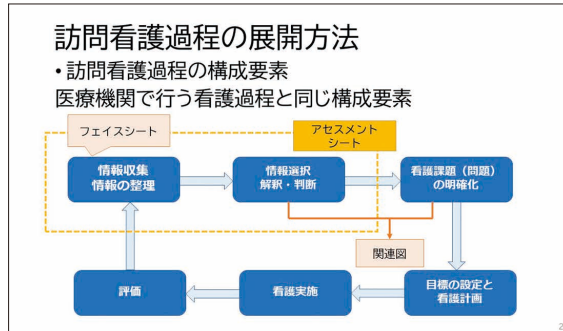
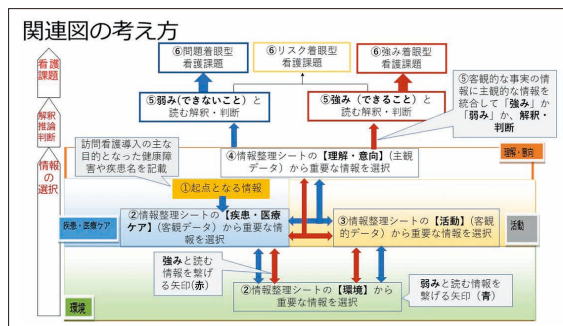
演習資料：地区踏査による作成資料の一部

2年生 在宅看護展開論

在宅看護展開論は、カリキュラムの改正で、今年度から始まった2年生対象の科目です。この授業では、在宅移行期にある療養者とその家族、要介護度の高い療養者とその家族の2事例から、看護過程の展開を行います。学生は、グループワークの中で、在宅で療養する療養者のアセスメントや支援の方向性について討議することをとおして、在宅看護の果たすべき役割について考えてきました。

これらの学びを経て、4年生では、臨地実習で在宅療養者を受け持たせていただき、2週間をとおして看護過程の展開を行っていく予定です。卒業後は、看護職として様々な場所で働かれると思いますが、高齢化が深刻化し、在院日数が短縮化されてきている医療体制の中で、今後、看護職として在宅看護の視点を持つことはとても重要と考えます。是非、地域・在宅をみていける看護職として成長していただきたいと思います。

(加利川真理)



オンライン授業の様子

関連図を活用した情報選択するうえでのポイント

- ①「疾患・医療ケア」、「活動」、「環境」
 ② 客観的な事実のみ記載し、解釈や判断による内容は記載しない
 矢印は、原因から結果につながるのが原則
- ②「理解・意向」の情報
 ③ 個性が高く主観的なものである
 例) 利用者が問題に感じるのか、気にとどめていないのか、その理解や意向は人によって異なり、そのことが援助内容に影響する。

健康や生活の質を脅かす問題点だけでなく、問題点の予防や改善に活用できる本人のもつ能力や意欲、家族の介護力、社会資源などの強みに目を向ける

授業で用いたスライド

3年生 母性看護実習

母性看護実習は、3年次の1～2月に各グループ4名ずつ2週間で行っています。出産後の母親と新生児を受け持ち、観察した結果をもとに看護計画を立案します。学生は、はじめて実施する新生児のバイタルサインを緊張しつつも練習通り測定し、母親の授乳状況について日々変化していくことに驚きながら観察し、机上では得られない学修を行っています。産科の母子だけではなく、新生児集中治療室（NICU）や助産院での実習も体験します。最近増加してきた不妊外来での実習も含め、周産期における看護支援を総合的に学んでいます。

（日高陵好、伊藤良子、加藤裕子）



実習の様子

4年生 認知症看護論

認知症看護論は4年生の選択科目で、認知症看護に関する知識と臨地実習などでの実践的な学びを統合し、認知症看護への理解を深めることを目指しています。

授業は、様々な状況を想定した事例検討、学生同士で認知症について学び教え合う協同学修など、学生が主体となって進みます。学びや気づきを言語化し、活発にディスカッションする姿には頼もしさを感じます。授業後の学生の振り返りからは、自分の実践を振り返ることの大切さや、認知症について学び続けることの必要性への気づきが見られます。

今後、認知症高齢者との関わりが増えていくことが予想されます。認知症看護論での学修が、卒後の看護職としての実践に繋がることを願っています。

（渡辺陽子）



写真：少人数で和気あいあいとした雰囲気の授業

学生表彰

県立広島大学では、学術研究活動や課外活動に積極的に取り組み、特に優れた業績を挙げた学生を対象に、学生表彰を行っています。今年度、看護学科では3年生6名が学業成績優秀者として表彰を受けました。

学業成績優秀者（敬称略）

平川 啓子、西原 梨恵子、野田 幸音、村岡 千頭、岡 歩美、財田 明花里

今回、学生表彰を受けた6名です。



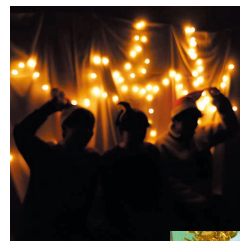
おめでとうございます！

サークル紹介

写真サークル「FLASH」

写真サークルは月4回の定期活動とハロウィンやクリスマスなどのイベント撮影会を主に活動しています。普段は各々のカメラやスマートフォンを用いて被写体を撮りつつ、カメラの使い方や、撮影方法を学んでいます。雰囲気は和気藹々としていて、コース、学年を超えて仲が良いです。いつか県外に足を伸ばした撮影旅行もしたいねと話しています。新型コロナウイルスの影響で制限のある面もありますが毎回楽しく活動しています。

(片桐碧采子)



◀◀クリスマス会



◀浮城祭ではチエキ撮影会を行いました

ボランティアサークル

昨年も新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動が制限されましたが、障害を持つ子どもたちが親の付き添いのもと水泳教室に参加している間に、そのきょうだいを見守るボランティアに参加するなど、児童・地域福祉の分野を中心に活動を行いました。今年度は感染状況が落ち着くことを願い、地域のお祭りでのボランティアへの参加など、中止・辞退していた活動を再開したいと意気込んでいます。

(松本美咲)

ヘルスケア同好会

現在、男子6人女子2人でゆるーく、まったりと活動しています。体育館前にある器具を使った筋力トレーニングが主な活動です。筋力トレーニングを通して筋肉の名称や、関節の動きを学ぶこともできます。また何より筋力をつけることで新陳代謝を上げ、よりよいスタイルや病気になるづらい身体を作ることができます。筋肉を増量したい、身体を引き締めたいなどの要望があれば、要望にあったメニューを組むことも可能です。今後は柔軟体操やヨガなどもやっていきたいと考えています。

(杉本湧)



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

教員紹介



小児看護学 講師 土路生明美

小児看護学を担当している土路生明美です。主に障害や健康障害をもつ子どもの看護について学ぶ講義や実習を担当しています。同じ疾患や手術でも、子どもや家族によっては、年齢や発達状況、既往歴、入院・治療に対する理解や思い等はさまざまであり、個々にあった細やかな看護が必要となります。学生が臨地で出会う子どもの病状や気持ち等の変化に気づいて看護を工夫することができるようになってほしいと実習では学修を支えています。

また、附属診療センター外来において、発達に課題のある子どもと保護者を対象に研究診療を行い、生活改善の支援を行っています。本学の学生にも子どもや家族の生活する地域や社会に関心を持ってもらい、利用できる医療や福祉の社会資源を理解した上で看護援助ができるよう、講義や実習で学修をサポートできるとよいと思っています。

〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
TEL 0848-60-1120 (代表) FAX 0848-60-1134 (代表)
✉ nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
URL <https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/nursing/>



ご意見、ご感想など
お寄せください。

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科／保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 広報係